



草の根通信

財団法人 ジョン万次郎ホイットフィールド記念 国際草の根交流センター

< 2004.3.20 >

Vol.45

URL: <http://www.manjiro.or.jp>

住所: 東京都千代田区麹町2丁目12-18

グランクス麹町 602号室

電話: 03 3511 7171 // Fax: 03 3511 7175

E-mail: info@manjiro.or.jp

第15回日米草の根交流サミット東海大会・最新情報

第15回東海大会 分科会・新情報

名古屋 「狂言教室と有松絞り体験」

名古屋の分科会では「揚輝荘」での「狂言教室」や、覚王山界隈の散策、近代日本画を展示している「古川美術館」の見学とお茶席体験、その隣の「為三郎記念館」で名古屋の伝統工芸「有松絞り」の展示を見学と体験など盛りだくさんのプログラムです。



揚輝荘【 】は、名古屋で初めてのデパート「松坂屋」を創業した伊藤家の別荘でした。かつて留学生を受け入れた歴史があり、陽気荘の地下にある舞台付きの舞踏室にはインド人留学生が描いた壁

画があります【 】。そこで、UNESCOの世界遺産にも指定されている「狂言」の教室を行います。狂言師佐藤融さんが狂言の歴史や発声法のレクチャーをしてくれる予定です【 】。また地元留学生との交流会も予定しております。

その後、「有松・鳴海絞会館」で名古屋の伝統工芸・有松絞り【 】の体験をして頂きます。しぼり染めとは、布を縫ったり糸でくったりしてから染料で染め、ほどいた時にできあがる

様々な柄を生かした染め技法のことです。近年では立体形状の面白さが注目され、その技法はファッションデザイナーの Issei Miyake などにも取り入れられています。



半田 「江戸の薫り漂うお酢の里」

半田市の分科会では、日本唯一のお酢の博物館「酢の里」で「お寿司」の起源を探ってもらうとともに、江戸時代のお寿司の味や、家庭料理でおなじみの「手巻きずし」の味を体験をしていただきます。

半田運河沿いには「食酢」や酒の醸造庫・倉庫蔵、街には屋敷蔵・山車蔵などを見ることができ、昔からの発展の様子を今に残した街

づくりがされています。江戸時代当時の面影を残した建物が多くあるこの一帯は、黒澤明監督の処女作「姿三四郎」の舞台としても使われ、撮影当時の姿を今も見ることができます【 】。日本の代表的祭り「山車祭り」も盛んに行われている地でもあります。また日本のアンデルセンとして名高い「新



美南吉」の故郷でもある半田市は、その短い生涯の中で残した数々の作品を収めた「新美南吉記念館」があり、文化的価値も高い街といえます。



⑥ 尾州早すし 江戸時代の復元寿司

今や世界中の人に愛されているにぎり寿司ですが、このにぎり寿司が広く食べられるようになったのは、粕酢(酒粕を原料とするお酢)が発明されたからでした。この粕酢づくりに成功したのが、ミツカングループの初代・中野又左衛門さんです。さらにお酢の大量生産にも成功し、廻船によって半田港

江戸の市場に送られました。半田の醸造技術と海運の力が、新しい寿司の歴史を作ったと言っても過言ではありません。この江戸時代に作られた寿司を復元したのが尾州早すし【 】です。サイズは今の寿司の約2倍で、ネタにはゆめみりと醤油で煮込んで調理されたものを使うなど現在の寿司とは少し違います。

常滑 「世界のタイルと焼き物を楽しむ」

常滑の分科会では、紀元前から近代までの世界25カ国のタイル約1,000点【 】を展示している「INAXタイル博物館」【 】や、レンガづくりの煙突のある「窯のある広場・資料館」の見学を行います。その工房では62色の小さなタイルを使ったカラフルなコースター作り体験が

できます。「焼き物の散歩道」では散歩しながら、常滑焼き職人のアトリエや常滑焼きのギャラリーの見学ができます。昼食は「盛田味の館」で醤油や味噌、お酒など醸造の全てを体験し、隣接する工場で作ったばかりの新鮮な食品やお酒を

味わうことができます。



東海大会 ボランティア実行委員会 開催

2月26日に『第1回「第15回日米草の根交流サミット東海大会」実行委員会』が行われました。会議には、各地域分科会の代表者やクロ-

方々、東海大会事務局員や第13回千葉大会のボランティアの方なども参加しました。大会実行体制や、各分科会の現状報告、第13回サミット千葉大会の紹介と助言、

今後の作業と日程を確認しました。3月にアメリカで最終募集活動を行い、3月末日で募集〆切となります。多くの方が参加し、素晴らしいプログラムを行えるように多くの方々が大会へ向けて準備しています。



「2005年日本国際博覧会」が2005年3月25日～9月25日の間に開催されます。日本では1970年に大阪万博が開催

されて以来、国際博覧会は2度目になります。世界で初めての国際博覧会はロンドンで1851年に行われ、その当時の最新技術が披露されました。過去の万博では世界の最新技術や各国の料理が紹介されてきました。愛知万博では最新技術とともに、「自然の

叡智」をテーマに各出展者が「地球との共生」を考慮したパビリオンになっています。



オプション・プログラム紹介

東海大会後、日本各地でオプション・プログラムを準備しています。北海道から広島まで8箇所でおこなわれます。

3泊4日の間に旧友を深めたり、日本の更なる魅力を発見できそうです。

日程

6月28日	京都 / 伊丹空港 各地域へ移動
29日	ホームステイ・プログラム
30日	ホームステイ・プログラム
7月 1日	各地から成田空港、米国へ帰国

十勝 (北海道)

帯広市を含む20市町村がある地域です。

酪農はもちろん、農業や牧畜も盛んで、アメリカ人には親しみやすい地域ではないでしょうか。

遊佐、余目、鶴岡 (山形県)

第7回山形大会が開催された地です。

山形県の3つの地域でのプログラムが計画されています。

遊佐町：鳥海山への小登山 / 湧き水探検 / 海水浴、湾内体験 / 座禅体験 / そば打

ち体験 / 温泉入浴

余目町：餅つき体験 / 酒蔵見学 / ライスセンター見学 / 余目町資料館見学 / 草鞋づくり体験 / 庄内豚バーベキューなど

鶴岡市：山伏体験 / 農家民泊体験 / 加茂水族館見学など

栃木 (栃木県)

28日は栃木市内を散策し、29日は日光を訪問します。日光東照宮や華厳の滝、中禅寺湖を訪ねる予定です。30日には公立小学校を訪問し、英語の授業やゲームを楽しみ、教

http://www.city.tochigi.tochigi.jp/english/main/top_flame.htm

室で給食を楽しんで頂きます。太平山のあじさい坂や、日本食(焼き鳥、だしまき卵や団子)も用意しています。

千葉 (千葉県)

第13回千葉大会を開催した地です。

成田空港の利用だけでなく、美しい自然やディズニーランド、そして日本にしかないディズニーシーも魅力的です。海も楽しめます。

静岡 (静岡県)

第9回静岡大会が開催された地です。

新幹線の停車駅が6駅もある東西に長い県で、伊豆下田や掛川、浜松など特色豊かな県でのホームステイ・プログラムです。



オプション・ツアーも3つ用意しています。

尾道市：中世に貿易港として栄えた港町で風光明媚な地です。

しまなみ海道：瀬戸内海に浮かぶ島々をつなぐ橋から景観を楽しめます。

平山郁夫美術館：現代日本美術を代表する彼の故郷を訪ねます。



写真提供：

渋谷永一さん(遊佐町)

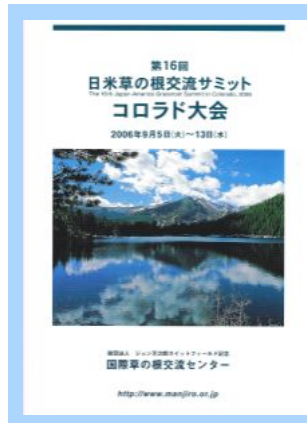


第16回日米草の根交流サミット 2006年 コロラド大会

第16回サミットはコロラド州コロラドスプリングスをメインに開催します。コロラドでは1996年に第6回サミット大会も開催しており、今回2回目になります。

標高1600mの地にあるコロラドは、夏でも湿気はなく、とても過ごしやすいところです。

マラソンランナーの高橋尚子が訓練したボルダーはコロラド州です。コロラド州は、中西部のワイルドさや自然の美しさ、そして独自の豊かなで崇高な文化もあわせ持つ地です。コロラド州の方々は今から2006年のサミットを楽しみに準備してくださっています。



第16回サミットコロラド大会 パンフレット完成

第16回サミットコロラド大会のパンフレットが完成しました。持ち運びに便利なサイズで、全ページがカラーで、写真も豊富に掲載されています。

コロラド大会にむけて準備しているボランティアの方々の写真を始め、コロラドの美しい景観や、豊かな自然を享受する人々の写真をみることができます。宿泊予定の宮殿のような「ザ・ブロードモア」の特別ページもお楽しみください。お問い合わせは事務局にどうぞ。

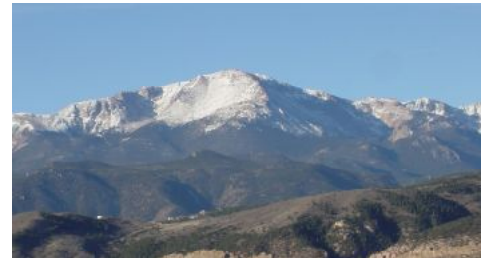
日程 2006年9月5日(火)～13日(水)

9月5日(火)	成田空港出発 / デンバー空港到着、コロラド・スプリングスへ	ザ・ブロードモア
6日(水)	オリエンテーション / オープニング・セレモニー / ウェルカム・パーティー	ザ・ブロードモア
7日(木)	地域分科会	ホームステイ
8日(金)	地域分科会	ホームステイ
9日(土)	地域分科会	ホームステイ
10日(日)	地域分科会より集合 / クロージング・セレモニー / フェアウェル・パーティー	ザ・ブロードモア
11日(月)	ホテル出発 / デンバー空港出発 / サンフランシスコ空港到着	ウェスティン・セント・フランシス
12日(火)	サンフランシスコ空港	機内泊
13日(水)	成田空港到着	

地域分科会(予定)

次の地域での分科会を考えています。分科会をよりよくする為に、変更が生じることもあります。

ジョージタウン (Georgetown)	ラ・ハンタ (La Junta)
ブエナ・ヴィスタ (Buena Vista)	ブライトン (Brighton)
サライダ (Salida)	ボルダー (Boulder)
ウェストクリフ (Westcliffe)	マニトウ・スプリングス (Manitou Springs)
アラモサ (Alamosa)	キャニオン・シティー (Cannon City)
コロラド・スプリングス (Colorado Springs) ・・・宿泊するホテルがあり、オープニング やクロージング・セレモニーを行う地です。	デンバー (Denver) ・・・コロラド大会で使用する空港がある地です。 多様な都市で、旅人と魅了し続けています。



America the Beautyで知られるバイクス・ピークス



ロイヤル・ゴージ・ブリッジの電車

オプション・プログラム

大会後、ご希望いただければ次の場所で3泊4日のホームステイも出来ます。

9月11日(月)～16日(土)



ワシントンDC風景



ニューイングランド風景



モンテレー風景

コロラド・スプリングス
ワシントンDC近郊
(ヴァージニア州、メリーランド州)
ニューイングランド地方
モンテレー (カリフォルニア州)
変更が生じることもあります。



USオリンピック・トレーニング・センター



2004-2005年版 アニュアル・レポート完成

2004-2005年版アニュアル・レポートが完成しました。

2004年「第14回日米草の根交流サミットニューイングランド大会」の報告を中心として、第15回東海大会や第16回コロラド大会の情報が満載です。

文章には日本語と英語が両方掲載されていますので、ホストファミリーにも一冊いかがでしょうか？ご希望の方は財団事務所までお問い合わせください。



サミット大会参加者からの

ホームステイ体験談

過去に開催した、サミット大会の参加者からの感想を掲載しています。サミット大会記録書に収めておくだけでなく、興味がある方に参考にしていただけるように掲載してゆく予定です。お楽しみに。

「草の根交流」を体感

「言葉の壁」の不安が大きなウエイトを占めていたのですが、「言葉ではなくハートなのだ」と思い切ってチャレンジしました。ホストファミリーも日本語がほとんど出来ず、私も英語を挨拶程度しかできません。お互いに最初はぎこちなかったのですが、そのうち気持ちが通じ合うよう

になってきました。

私が大切に思ったことは、一人の人間として礼儀を大切に過ごすということでした。

ホストファミリーもそのことにとっても好感をもってくれ、帰国後もお礼のメールをしたら「キープ・イン・タッチ」と返事をいただき、草の根交流の意義を体感しました。

(2004年7月「第14回日米草の根交流サミット

ニューイングランド大会」日本人参加者)

「中濱万次郎」発行

—「アメリカ」を初めて伝えた日本人—

万次郎(中濱家)4代目、中濱博著『中濱万次郎「アメリカ」を初めて伝えた日本人』が富山房インターナショナルから出版されました。当財団の「サミット大会」のことも

書かれており、また第14回ニューイングランド大会のフェアウェル・パーティーの主催者、ニューベッドフォード捕鯨博物館のことも書かれています。機会がございましたら是非ご覧ください。

「中濱万次郎」著者

中濱 博さん(万次郎四代目)からのメッセージ

中濱博著『中濱万次郎』について(富山房インターナショナル)

この本は、万次郎の一番詳しく正確な伝記と思っている。この本には二つの大きな特徴がある。

一つは今も「ジョン万次郎ホイットフィールド船長記念」となっているように、両家の現在まで続いているきずなを各年代ごとに詳しく書いてある。もう一つは伝記であるが、今まで万次郎に関する伝記は、主に写本からとったものである。

この本は、出来るだけ写本にたよらず、日記、手紙、公文書、船の入出港記録などを基にして新しい事実を掘り起こすことに努めた。そのため、不明であったことが判明したり、新事実をたくさん発見することができたと思っている。幾つかその例をあげてみる。

・鳥島からの救出：洞窟の位置を調べ、そこから救助地点までの距離、航海日誌、風向き、地形、万次郎自身が後に述べていることなどから救助の状況を詳しく再現した。

・チリを訪れた最初の日本人：写本の多くは万次郎の乗ったサンフランシスコ行きの船がチリのバルパライソに寄ったとなっている。当時の船の入出港記録をチリ大使館を通じて調査した結果、バルパライソでなくタルカウアナに船が寄港していた記録が見つかった。これにより、万次郎はチリを訪れた最初の日本人と判明し、日本チリ関係が25年遡ることになり、関係者を喜ばせている。

・琉球に上陸して帰国：上陸のチャンスは干潮時のみ。その理由を述べ、当時の干満時刻を分単位まで海上保安庁が算出してくれたのを基に、上陸した時の状況を詳細に調べた。

・咸臨丸航海図の誤り発見：咸臨丸が帰りホノルルに寄港した時、万次郎の書いた航海日誌を調べている内、今まで使われていた咸臨丸の航海図に間違いがあることを見つけた。専門家の調査でも間違いであることが確認できた。万次郎が教えてくれたと思っている。

・フェアヘーブン再訪：1870年欧州出張の時、ニューヨークでわずかの時間を割いてフェアヘーブンに行き、恩になったホイットフィールド船長に感動的な再会をした。今でさえフェアヘーブンに行くのは大変である。それを130年前飛行機のない頃、実現できたことは奇跡に近い。どのようにして行ったか、偶然見つけた当時の鉄道時刻表などを基

に再現した。

・帰国日：その時の帰国日が今まで不明であったが、帰国法、帰国日を判明した。その他、ベリーは万次郎を知っていたこと、モビー・ディックにトドメを刺した男のこと、鳥島漂着船19例(最多)の略歴など、いずれも、学問的科学的根拠に基き書いた。学問的根拠があるといっても難しい専門書でなく、全国学校図書館協議会選定図書となっており、中高生をはじめどなたにも分かりやすく読めるので、万次郎をより身近なものとして頂きたく、ご一読頂ければ幸いです。

A5判、P.368、2940円。書店にない時は、富山房インターナショナル(03-3291-2578)へ。

万次郎直系四代目 中濱 博